

ワークショップ実施結果について

1 実施概要

(1) 目的

北区地域保健福祉計画の見直しにあたり、区内の地域福祉の現状や課題、区民の意見等を把握し、検討の基礎資料とすること、また区民同士の交流の場とするとともに、地域福祉の担い手として、今後どのようなことができるか考えていただく機会として実施しました。

(2) 開催日時

平成 29 年 1 月 14 日（土） 14 : 00～17 : 00

(3) 開催場所

赤羽文化センター（第 1 視聴覚室）

(4) 参加者

広報紙「北区ニュース」及び区ウェブサイトで公募し、応募のあった区民等 25 名
（高齢者あんしんセンター、民生委員（OB 含む）、NPO 及び帝京大学からも参加）

(5) 当日の流れ

ワークショップの開会にあたり、北区の現状や今後の課題などを武蔵野大学 川村匡由名誉教授よりご講演いただきました。

ワールド・カフェでは、参加者を A～E の 5 つの班に分け、北区社会福祉協議会等の職員がファシリテーターとして各班に入り、意見を整理するとともに、活発な意見交換が行えるようサポートしました。ワールド・カフェ終了後には、各班で出された意見やアイデアをまとめた模造紙をもとに、発表していただきました。

発表時に使用した模造紙は会場に掲示し、各班で出た意見を振り返っていただくとともに、共感する意見や、興味を持った意見にシールを貼っていただき、参加者同士の交流の時間となりました。

内容	時間	分
講演：武蔵野大学 川村匡由名誉教授	14 : 10～14 : 30	20
ワールド・カフェ ※全 3 回実施	14 : 35～15 : 00	25
	15 : 00～15 : 25	25
	15 : 25～15 : 55	30
発表 ※3 分×5 班	16 : 00～16 : 20	20
講評：武蔵野大学 川村匡由名誉教授	16 : 20～16 : 25	5
アンケート	16 : 25～16 : 30	5
交流タイム	16 : 30～17 : 00	30

(6) 実施手法

ワークショップは、参加者が気軽に発言ができるように、ワールド・カフェ方式で行いました。

ワールド・カフェ方式とは、“カフェ”にいるような雰囲気、参加者が少人数に分かれたテーブルで自由に対話を行い、時間を区切って他のテーブルとメンバーをシャッフルしながら話し合いを発展させていく方法です。

2 実施内容

(1) 講演：武蔵野大学 川村匡由名誉教授



北区の人口や世帯数、子育て支援で行っている事業や実際にあった相談内容の紹介、北区の10～30年後を見据えてこれから求められることについてご講演いただきました。

北区地域保健福祉計画の見直しにあたっては、小地域福祉活動や、区・社協・施設・町会自治会などとの連携、区民の参画がポイントであり、短期・中期・長期の視点で考えていくことが重要であるとお話頂きました。また、モデル地区となっている東十条での事例についても紹介がありました。

ワークショップ

～健やかに安心してらせるまちづくりを考えよう～

平成29年1月14日
於 赤羽文化センター

武蔵野大学 川村 匡由

北区の位置と面積

面積20.61km²(23区中11番目)
東西約2.9km
南北約9.3km

2

人口・世帯数、1世帯当たりの人口推移

年	人口 (人)	世帯数 (世帯)	1世帯当たり人口 (人)
平成23年	333,461	168,730	1.98
平成24年	332,577	159,872	1.96
平成25年	333,406	179,169	1.86
平成26年	335,818	181,348	1.85
平成27年	338,854	184,300	1.84
平成28年	342,732	188,030	1.82

人口・世帯数ともに増加傾向。
1世帯当たりの人口は年々減少してきている。

3

年齢3区分別人口の推移

年	0～14歳	15～64歳	65歳以上
平成23年	31,090	208,237	78,271
平成24年	31,069	207,091	79,503
平成25年	32,730	218,159	82,517
平成26年	33,320	217,961	84,537
平成27年	33,926	218,673	86,255
平成28年	34,535	220,762	87,435

15～64歳の人口が増え、割合も上がってきている。
65歳以上の高齢者も毎年増えてきている。

4

5歳年齢階級別人口構成(人口ピラミッド)

平成24年に60～64歳だった方が、平成28年には65～69歳となり、高齢者の人口が増えている。

5

地区別人口の推移

年	王子区	赤羽区	滝野川区
平成24年	105,478	125,374	96,211
平成28年	113,845	133,158	96,229

赤羽地区で13万3千人、王子地区で11万3千人、滝野川地区で9万6千人となっている。3地区とも人口は増加している。

6

高齢者世帯数の現状

区分	高齢者単身世帯数	高齢者のみ世帯数	高齢者を含む世帯数
北区全体	約30,000	約15,000	約20,000
赤羽地区	約12,000	約6,000	約8,000
王子地区	約8,000	約4,000	約5,000
滝野川地区	約7,000	約3,000	約4,000

区内の高齢者単身世帯は約3万世帯。
特に赤羽地区で多い。

7

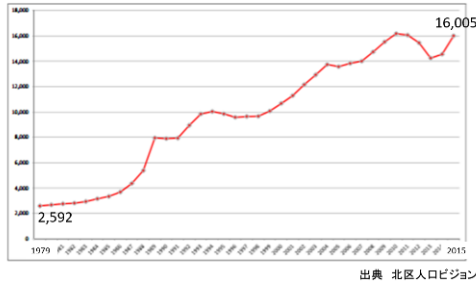
身体障害者手帳所持者の現状

年度	視覚障害	聴覚・平衡機能障害	音声・言語機能障害	肢体不自由	内部機能障害	総数
平成21年度	3,504	1,005	1,006	6,280	156	12,011
平成22年度	3,552	1,063	984	6,294	164	12,057
平成23年度	3,634	1,044	969	6,300	165	12,112
平成24年度	3,605	1,023	948	6,222	151	11,949
平成25年度	3,699	1,052	949	6,339	146	12,185

身体障害者手帳所持者数は、ほぼ横ばい状態となっている。障害部位別では、肢体不自由が最も多く、内部機能障害、聴覚・平衡機能障害、視覚障害と続いている。

8

外国人人口の現状



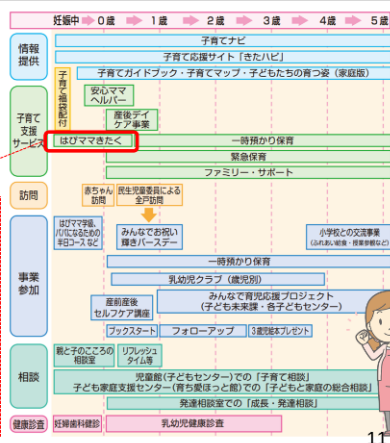
外国人人口は増加傾向で、平成27年には約1万6千人となった。

子育て・妊婦支援の現状 ～母子健康手帳の交付数～



子育て・妊婦支援の現状 ～北区が行っている支援内容～

出典 北区子育てガイドブック(平成28年5月発行)



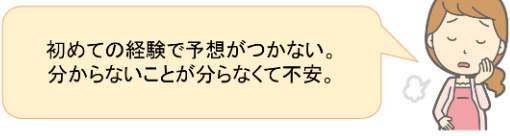
平成28年1月～
妊娠中の様々な不安を軽減し、安心して出産を迎えられるよう、保健師等の専門職が、妊婦全員を対象にした面接事業を実施しています。
(はぴママ・たまご面接)

子育て・妊婦支援の課題

～はぴママ・たまご面接での相談内容より～



出産後の保育園の入園や、育児サポートが心配。
予防接種についてもよくわからないので知りたい。



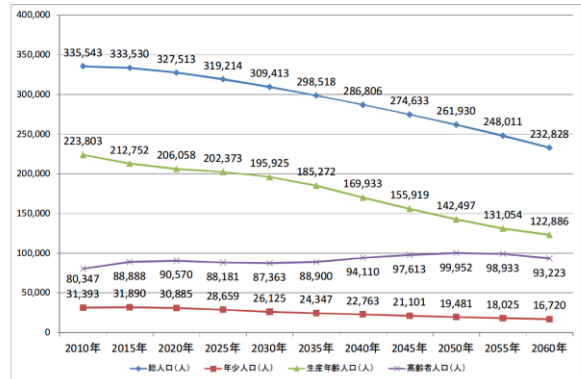
初めての経験で予想がつかない。
分からないことが分らなくて不安。

北区の10～30年後

1. 少子化
2. 高齢化
3. 人口減少
4. 予測されるまちなみ
5. 災害可能性



国立社会保障・人口問題研究所推計に基づく北区の将来



出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」準拠

今後の地域保健計画の目標

1. 小地域福祉活動(3圏域・7地区・小中学校区など)
2. 区・社協・施設(地域包括)・町会自治会などとの連携
3. 区民の参画



短期: モデル地区の設定・パイロット事業(CSWの常置)
中期: 区域半分の試行
長期: 全区域実施



これまでの計画の評価と課題・解決策

1. 評価(実施・未実施・新たな課題)
2. 課題(地域福祉活動計画との連携など)
3. 解決策
 - ①介護保険事業計画などとの棲み分け
 - ②ヒト・モノ・カネの調達(お互いさまネットワーク・町会・自治会補助事業・NPOなどとの連携)
 - ③「見える化」・参画メリットによる区民への啓発(地域特性・地域通貨導入の検討・地域防災との融合など)

(2) ワールド・カフェ

北区地域保健福祉計画（平成 19 年度～平成 28 年度）の基本理念である「健やかに安心してらせるまちづくり」をテーマに、身近なところで感じていることや状況などを、自由に意見交換していただきました。

①班の構成

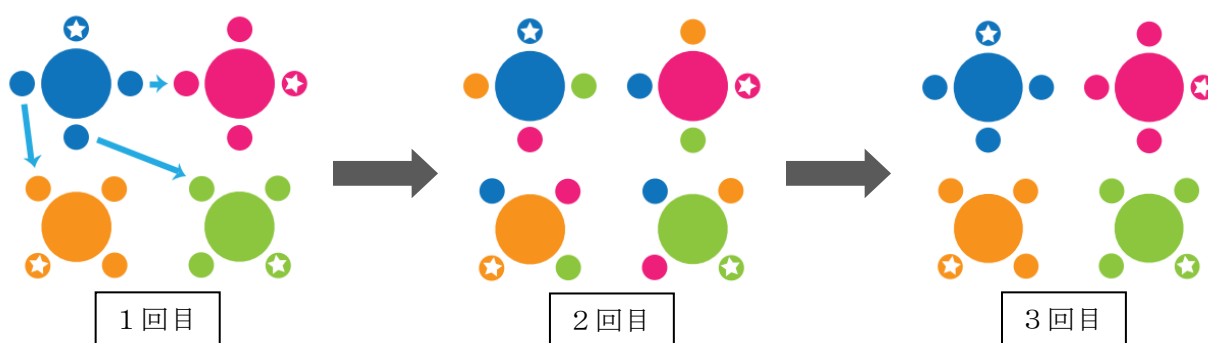
A～E 班の 5 班、各班 5 名（進行役含む）で構成し意見交換を行いました。また、以下の通り各班を色分けしました。

A 班：ホワイト、B 班：ピンク、C 班：ブルー、D 班：グリーン、E 班：イエロー

②進行方法

意見交換は、様々なアイデアや意見を共有し、新しい気づきがうまれるようにするため、途中席を移動し全 3 回に分けて行いました。

1 回目から 2 回目に移る際の席の移動については、★マークの方は残り、その他の方が別の班に移動します。3 回目は 1 回目の班に戻り、意見交換の内容をまとめました。



③各回の主な意見交換内容

【1回目（25分間）】

「健康・いきがい」、「地域貢献・ボランティア」、「交流・つながり」、「安心・安全」、「子育て支援」のキーワードをもとに、身近なところで起きていることや、気になっていることなど、地域での現状について意見交換を行いました。

【2回目（25分間）】

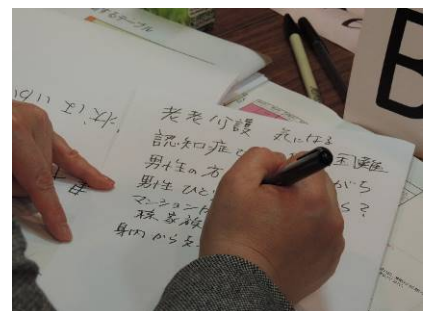
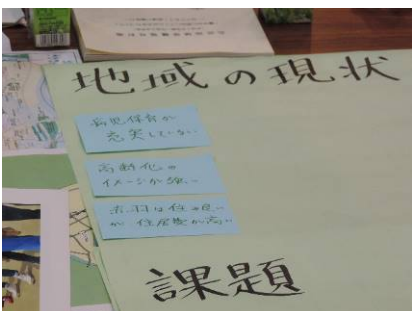
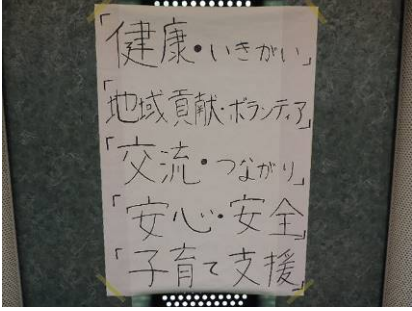
1 回目に出された地域の現状を踏まえ、どのような課題や改善すべきことがあるのか意見交換を行いました。

【3回目（30分間）】

1 回目に出された地域の現状と、2 回目に出された地域の課題を踏まえ、どのようなまちにしていきたいか意見交換を行うとともに、班で出された意見を模造紙にまとめました。



【参考 (写真)】



(3) 発表 ※3分×5班

A班 (ホワイト)

- ・いろいろな地域で課題があるが、把握しにくい。隣組のように近所で把握できる仕組みがあるとよい。
- ・地域に貢献したいと考えている人材を把握する。情報ルートをどうにかしたい。
- ・社協が認識されていないので、知らせる活動が必要。
- ・行政は課ごとの壁があるので、これを取り払う。そのためには区民の力が必要。
- ・区民はコミュニティ間のつながりが弱い。誰でも気軽に集まれる、喫茶店のような場所や、空き家を活用した活動拠点があるとよい。
- ・子育て面で、一人悩んでいる人がいるため、多世代交流の場があるとよい。社会的な孤立を防ぐため、家にこもる人を外に出すための場づくりが必要。



B班 (ピンク)

- ・(悪い面) 高齢者のひとり暮らしや認知症の問題。地域によって買い物難民が出てしまう。虐待に関しては、問題がないと動かない。世代間の垣根がある。いろいろな世代がそれぞれ集まって活動しているが、相互に交流がなく、つながっていない。
- ・(良い面) 町会でシニア向けのサロンが始まった。隣近所の付き合いがあるので、見守りをしてくれている。児童館で友達ができるなど、子育て面でのつながりがある。
- ・移動販売ができるとよい。実際に商店と話をし、実施している自治会がある。
- ・交流がないという点では、キーワードは共存。地域で交流できる機会、声掛けができるといい。お互いに気を遣いすぎている部分もあるのではないかな。
- ・高齢者の見守り等、何かあったときに、責任をどうとるか、どう取り組めばよいのかが課題だが、その点に関しては明確な答えはでなかった。



C班 (ブルー)

- ・子どもができてはどうやって育てればいいのかわからない親が多い。高齢者対策も大事だが、これからを担う若い世代の支援が必要。
- ・情報弱者の問題。北区ニュースに載っている、区民が楽に暮らせる制度・情報をいかに知ることができるか、工夫する必要がある。
- ・若い世代は自分たちの生活に精一杯で、高齢者の援護は難しい。
- ・多世代の集まれる場所がほしいと皆が思っているが、その場所づくりはボランティアにはできないので、その土台は行政が作ってくれることを期待したい。現在も集まれる場所はあるが、対象が限られている。これを誰でも気軽に集まれる場所にしてほしい。



D班 (グリーン)

- ・赤羽は住みやすいが家賃が高い
- ・他区に比べて病児保育が充実していない。子育て支援にも力を入れてほしい。
- ・坂が多くて買い物が大変なので、エレベーターやエスカレーターが必要。高齢者、障がい者、ベビーカーを押したお母さんにとってもよいことであり、ユニバーサルデザインや、ノーマライゼーションの考え方にもつながる。
- ・民生委員から見て、20年前の北区と状況が違う。福祉やサービスは充実したが、問題は多様化している。関わっている側も高齢化しており、複雑な問題に対応しながら世代を超えてつながろうとする場合、誰がまとめて行けばよいかという問題がある。
- ・世代を超えて気軽に集まれる場（サロン、カフェなど）があるとよい。男性が参加しやすい場も考えていく必要がある。
- ・大学が赤羽に来るので、出張授業などを通じて多世代の交流の機会を持てるとよい。
- ・ボランティアは潜在的にいるが、どこにどうつながればいいかわからないので、情報を整理するところがあるとよい。
- ・地域にいる人のスキルを活かし、イベント等を行ってはどうか。
- ・オートロックのマンションなどには、「関わってほしくない」という人もいる。個人情報やプライバシーの問題もあり、垣根を越えて支えあうという、お互い様の関係を作る難しさに頭を悩ませている。



E 班（イエロー）

- ・高齢者の買い物する場所がなく、西ヶ丘、桐ヶ丘などはコンビニ程度しかない。坂も多く、足に不安のある高齢者は、買い物に行きにくい。
- ・配食サービス利用者が多いが、味が均一的で飽きてしまう。
- ・足の問題では、ちょっとしたサポート（見守り・付き添い）があれば通院できるが、環境が整わないため、往診を頼まざるを得ず、費用が掛かる。
- ・高齢者の活動の場が整備されていない。
- ・高齢化率が高い地域のため、老々介護の問題がある。
- ・孤食の問題が大きい。北区のふれあい食事会、住民主催の食事会等があるが、キャパや、情報弱者の問題がある。
- ・自治会の高齢化。若い世代は少なく、また子育てで精一杯で地域活動に参加しにくい。
- ・外国人が多く（中国人や韓国人）、相談窓口も含め言葉の壁があり制度につながりにくい。
- ・都営住宅に高齢者が多いのが課題。
- ・学生が地域活動に参加することを条件に、都営住宅に学生が安く入れるような枠を作ってはどうか。高齢者の足の問題、付き添い問題の解消につながるのではないかと。
- ・福祉教育の必要性。退職後の男性は地域デビューがなかなかできない。特に男性が地域になじめるような教育を考える。多世代交流ができる教育を、子どもの頃からできるまちづくりができるとよい。
- ・外国人と行政・相談窓口をつなぐ手段や仕組みづくりにより、外国人の活力を生かす。



- ・介護保険の認定率が全国平均から見てそれほど高くないので、元気で自分のことは自分でやりたい高齢者が多い。高齢者が活躍できる居場所づくり、能力を生かせるような仕組みづくりをしていく。

(4) 交流タイム

模造紙にまとめた結果を会場に掲示し、参加者が自由に見られるようにしました。また、新しい気づきや、気になった意見やアイデアにシールを貼っていただき、参加者全員でワークショップの振り返りを行いました。



シールが付いた意見一覧

※意見の最初のアルファベットは班、意見の終わりの丸数字はシールの数です。

【現状・課題】

世代や立場に関係なく交流を図るという意味で出された「かきまぜる」が、参加者の多くから共感を得ました。また、地域に関わる人の責任や、誰もが気がねなくいられる居場所づくりについても、複数のシールが付きました。

- A/C かきまぜる④
- B 責任という課題③
- A 居場所づくり（大きな受け皿）②
- C（バックボーン）、土台、区、保障①
- A 知らせる活動①
- A ノウハウを伝えたくても声がかからない①
- A 病児保育が知られていない。①
- A 社会的孤立①

【こんなまちにしたい】

平成 29 年 4 月に東洋大学赤羽台キャンパスが開校予定であることから、大学・大学生などと協力してまちに若い人が来やすいまちづくりを行いたいという意味で出された「大学が来るのでコラボして「まち」に若い人が来れる」が、参加者から多くの共感を得ました。その他、高齢者の買い物支援の一環として出された「移動販売があるといい」や、多世代の交流を図る「世代制度をかきまぜてみる」、男性は地域に出る機会が少ないという実態から「男性が生き生きする場」、外国人が増えてきていることから「外国人のコミュニティをサポート」についても、複数のシールが付きましました。

- D 大学が来るのでコラボして「まち」に若い人が来れる⑦
- B 移動販売があるといい。⑥
- C 世代制度をかきまぜてみる。⑤
- E 男性が生き生きする場④
- E 外国人のコミュニティをサポート②
- C 健康でイキイキ暮らせる地域①
- E 高齢者に活躍してもらおう。①
- A 本当に困ったときに声をあげられる地域づくり。①
- B 高齢・子ども・障がい者問わず、誰でもが集まれる場所をつくる。①
- B お勤めしていても地域で交流出来るように①
- B 未来のシニアも交流しよう。①
- C みんな（高齢者、子ども、親）が一緒にいられる場所。①
- E 受け身から受け入れる側へ①
- C 認知症になっても暮らせる地域①
- C 地域内で支えられる活動をするための土台・保障（根幹）・仕組みがある。①
- E 都営住宅を若い人に貸す。①
- E 違う畑の人を探す①

（5）講評：武蔵野大学 川村匡由名誉教授

やはり人・もの・かね、特に居場所づくりが大事です。そのためには、行政・社協・区民がいかに知恵を絞るかが大切になってきます。民間レベルで、自治会の事務所や集会所、あるいは空き店舗などの利用を商店街と交渉する代わりに、買い物客が増えるような方向にもっていくようなことも考えられます。北区内みんなで競争をし、他の地区の活動をヒントにいろいろ考えていくとよいのではないのでしょうか。全国的に見ても、行政がなかなか手の届かないところにも、民間レベルで活動している例がみられます。

地域保健福祉計画の平成 29 年からの 10 年間で、今日の成果としての皆さんの思いをなるべく計画に落としていきたいと思えます。今後様々な事を相談し、地域の関係者の方々と協力して、話し合いの場を継続し、何年か後に具体的に、区内のどこでがんばってやっている、となるような計画の策定に活かしたいと思えます。

3 ワークショップまとめ

北区地域保健福祉計画（平成 19 年度～平成 28 年度）の 9 つの取り組みの方向別に、ワークショップで出された「現状」と「課題」に関する意見を整理しました。また、「こんなまちにしたい」で出された意見については、3 つの目標別に分類しています。

現状と課題

取り組みの方向	意見内容
<p>(1) 区民の主体的参加による健康づくりの推進</p>	<p>○区、地域、家庭、学校、職場、団体などとの連携・協働による健康づくり施策の推進</p> <p>A 行政の視野がせまい</p> <p>A 行政を動かす</p> <p>A 課ごとの壁を区民の力で取り払う</p> <p>A 区（行政）の問題意識</p> <p>A 元気な高齢者</p> <p>B 責任という課題③</p> <p>B 事が起きないと動けないという機関が多い。</p> <p>B 元気高齢者がふれあい館によく集まっている。</p> <p>C （バックボーン）、土台、区、保障①</p> <p>E 組織づくり</p> <p>E 食事会の拠点を増やす。</p>
<p>(2) 地域内での情報の提供と共有化</p>	<p>○活動や支援機関の情報提供の周知・共有化</p> <p>A 知ることと伝えること</p> <p>A 役所からの情報のルートの固定化</p> <p>A 知らせる活動①</p> <p>A いろいろな人に意見をどう聞くか</p> <p>A 健康で普通の人には社協をそもそも知らない</p> <p>D 情報に困っている人。何か手伝えることがあるかも。</p>
<p>(3) 地域福祉に関連する人材の発掘・育成</p>	<p>○地域活動人材を発掘・育成</p> <p>A 人材の把握がない</p> <p>A リーダーの養成</p> <p>B 男性は閉じこもりがち。</p> <p>C 次の 10 年で高齢者はもっと増える。その時、誰が支援するのか。</p> <p>C 若い人は仕事で地域にいない、日中はいない。</p> <p>D 地域にいる人のスキルを活かす。(今はうもれている)</p> <p>D 世代を越えて繋がろうとするとき誰が中心になるのか。</p> <p>D ボランティアの情報の把握</p> <p>D 民生児童委員のなり手が少なくなっている。</p> <p>E 自治会。若い人がいない。</p> <p>E 今までの能力を生かす。</p>

取り組みの方向	意見内容
<p>(4) 地域における交流・ 支えあい活動の推進</p>	<p>○交流やきっかけづくり、支えあい活動の推進</p> <p>A 隣組</p> <p>A 若い人は SNS のつながりがある。</p> <p>A 交流とつながり</p> <p>A 多世代交流かかわりがない。</p> <p>A 居場所づくり (大きな受け皿) ②</p> <p>A 悩みを出せる場 (障害、子育て、介護)</p> <p>A ひとりで悩みすぎ。</p> <p>A 喫茶店</p> <p>A/C かきまぜる④</p> <p>B 町会でシニアサロンをはじめた。</p> <p>B 隣近所づきあいで、見守りをしてくれている。</p> <p>B 児童館で友達ができたママさんもいる。</p> <p>B 出るのが苦手な人、人との交流が苦手な人をなかなか呼び込めない。</p> <p>B お互いに疎外感持っているかも。</p> <p>B 見守りの人がいなくなった。</p> <p>B 働いている人たちにとっては交流のきっかけが少ない。比較的若い人の支援がない</p> <p>B 気軽に立ち寄れる場所 (高齢者) が少ない。</p> <p>B 桐ヶ丘団地には、みんなで集まれる場所が結構ある。交流の場所にすればいいのでは。</p> <p>C 親切な人が見守りしている。</p> <p>C 見守りしている人も高齢者。</p> <p>C ひとり暮らしの高齢者が多い。近所で支えあっているが。</p> <p>C ボランティアの責任、スキル。有償で担い手、報酬。</p> <p>C 責任という問題 (ボランティア資格)。</p> <p>C 世代で分断されている。</p> <p>C 多世代が集まれる場所が必要。</p> <p>D 見守りで訪問しても出てくれない。(地域の不信感?)</p> <p>D 関わってほしい人、関わってほしくない人それぞれで地域へ入るのが難しい。</p> <p>D 隣近所で知り合いたい (分かり合いたい)。</p> <p>D 隣近所で仲良くなりたい。</p> <p>D 子ども、障がい者、高齢者世代などを越えた場</p> <p>E 活動する場所が無い。</p>

取り組みの方向	意見内容
(5) 地域内での連携・ネットワークの構築	<p>○活動者同士が知り合い、ネットワークを構築できるような仕組みづくり</p> <p>A ノウハウを伝えたくても声がかからない①</p> <p>A 同じ人たちで集まる傾向</p> <p>B 子どもの虐待、民生委員にも入らない問題を引き上げられない。</p> <p>B 子どもの問題。見つけるのは難しい。</p> <p>C 近所の人が声をかけてくれる仕組み</p>
(6) 地域活動が生み出されるきっかけづくり	<p>○地域に関心をもち、地域課題に応じた活動が生み出されるきっかけづくり</p> <p>A 活動の場所、拠点の確保</p> <p>A 空き家の利活用</p> <p>A 気軽な場</p> <p>B 空地や公園をもっといかせないだろうか。話し合いの機能がほしい。</p> <p>C 見守りたい、つなげたいと思っても難しい。</p> <p>C 今、困っている親。高齢者をどこにつなげばいいか。</p> <p>C 出てこない人、閉じこもっている人がどうしているのか。</p> <p>D 町会単位で取り組めることがないか。</p> <p>E 若い世代は子育てでいっぱい。余裕なし。</p>
(7) サービスの充実と総合化	<p>○保健・医療・福祉の連携、生活関連分野との連携</p> <p>A 大きな受け皿の発展</p> <p>B 地域によっては買い物難民になってしまう。</p> <p>B デイサービスを嫌がる男の人が多。</p> <p>C 自分で出られない。移動手段の問題。</p> <p>C 産前産後のヘルパーが少ない。希望通り使えない。1回位参加費を補助してほしい。</p> <p>C 2・3月保育所の空きがない。入りにくい。</p> <p>D 病児保育が充実していない。</p> <p>D 福祉的なサービスや形が多様化してきた（20年前と比べて）</p> <p>E 配食飽きる</p>
(8) サービスの利用を支援する仕組みづくり	<p>○適切なサービスを選択できるような情報提供</p> <p>A 病児保育が知られていない。①</p> <p>B 地域に子供向けの医療機関が少ない。</p> <p>B 身内の支援が受けにくくなっている。（核家族化）</p> <p>B 老々介護が気になる。</p> <p>B 老々介護が心配</p> <p>C 情報弱者</p> <p>C 後見人。知られてきたが担い手がない。</p> <p>E 外国人の言葉の壁。</p>

取り組みの方向	意見内容
<p>(9) 地域で安心して暮らせる環境の整備</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○バリアフリー化、緊急時に備えた体制の整備 B 買物できるところが遠い。 B 重いものを持って帰れない。買い物が大変。 B 家主不在の放置された空き家問題。 D 坂の多い所はエレベーター（エスカレーター）がないと… D 坂が多い所は買い物が大変。 D 買い物難民 E 買い物難民 E 西ヶ丘、お店がない。（スーパーなどない、コンビニしかない） E 空き店舗 E 都営住宅の空きをなくす。
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> A 地域差 A ボランティアの質。 A 社会的孤立① B マンションに移動販売ができた。自治会と商店が動いてくれた。 B 高齢、障がい、子どもすべての分野 B 特有の課題もあるが、共通する課題も多い C 外出できない人が多い。 C 子育てのノウハウがわからない親が多い。ものすごく多い。 D 高齢化のイメージが強い。 D 赤羽は住みやすいが住居費が高い。 D 集合住宅の世代が変わりつつある。 D 代々住んでいる人がいる。 D 20年前と今の状況は大きく変わった。 E 通院できない（足がない） E 老々介護の対策

こんなまちにしたい

目標	意見内容
<p>(1) 健康でいきいきとした地域社会づくり</p>	<p>B 高齢者も特技で活躍できるようにする。 B 高齢者も活躍できる。 B 障がいのある人も活躍できる。 C 健康でイキイキ暮らせる地域① E 高齢者に活躍してもらおう。① E 高齢者に期待。 E 高齢者に託す。 E 男性が生き生きする場④</p>
<p>(2) ともに支えあう地域社会づくり</p>	<p>A 挨拶は子どもから。 A 交流（家に残る人を外に出すために） A 本当に困ったときに声をあげられる地域づくり。① B 高齢・子ども・障がい者問わず、誰でもが集まれる場所をつくる。① B お勤めしていても地域で交流出来るように① B 男性が出てくる仕組み。囲碁、将棋とか。男性だけの会とか。 B 未来のシニアも交流しよう。① B 共存できる社会 C 他の世代とコミュニケーションがとりにくいので、きっかけをつくる。 C 世代制度をかきまぜてみる。⑤ C みんな（高齢者、子ども、親）が一緒にいられる場所。① C 地域のいろいろな活動、横のつながりを。 C 担い手。前期高齢者をどう活用するか。ほかの担い手。 D おたがいさま（ちょっとした助け合い。） D 困ったときに気軽に声をあげられる環境。 D 気軽に「挨拶」出来るようになりたい。（おたがいさまで手伝い） D 大学が来るのでコラボして「まち」に若い人が来れる。⑦ D 助けてほしい時、気軽に声をあげられる地域。 E 受け身→主催 E 受け身から受け入れる側へ① E 新たな人材発掘 E 児童館の活用（多世代交流） E 活動する拠点がいっぱいある。 E 子どもの頃から世代・異文化交流を促す。 E 日常的な多世代交流。 E 高齢者と子どもの交流。 E 外国人のコミュニティをサポート②</p>

目標	意見内容
<p>(3) 安心して自立した生活が送れる地域社会づくり</p>	<p>B 移動販売があるといい。⑥ C 認知症になっても暮らせる地域① C 地域内で支えられる活動をするための土台・保障（根幹）・仕組みがある。① D ユニバーサルデザイン。バリアフリー。 D ノーマライゼーション</p>
<p>その他</p>	<p>C モデル地区をつくってやってみる。 D 住民単位の集まり組織が必要。 E 都営住宅を若い人に貸す。① E 教育から始める。 E 違う畑の人を探す①</p>